

第29回

イタリア語とフランス語の歌を歌う ～楽しく歌おう (6)～



講師
馬淵明彦

学習のねらい

今回は、イタリア語で「サンタ・ルチア」、フランス語で「おおシャンゼリゼ」を歌います。カンツォーネは、イタリアの流行歌や民謡風の声楽曲のことで、代表的な曲として「オー・ソーレ・ミオ」「帰れソレントへ」などがあります。一方、シャンソンは、フランス語で「歌」という意味です。歌謡曲としてのシャンソンは「枯葉」「愛の賛歌」がよく知られています。今回は、原語で歌うので難しいかも知れませんが、イタリア語とフランス語の言葉のひびきを楽しんでください。

イタリア語で「サンタ・ルチア」を歌う

サンタ・ルチアとは「聖ルチア」のことで、ナポリの海や漁師たちを守る守護聖人のことを指していますが、同じ名前を持つこの歌は、ナポリの中心にあるサンタ・ルチア海岸の美しさと舟遊びの楽しさを歌ったバルカローレ（舟歌）です。8分の3拍子で2小節が1単位となり、小舟のゆれるような動きを表しています。

「サンタ・ルチア」をのびのびと歌うために腹式呼吸の練習をしましょう。仰向けに寝て呼吸をするとおなか上下します。おなかから息を吐くように呼吸してください。次に口の奥を開けた明るい声で歌います。奥の開け方を実感するために、前歯で指先をくわえて「あいうえお」と発音し、音が曇らないように明瞭に言えたら奥が開いた状態です。おなかを使って息を吐き、明るく明瞭な声で音をつなぐように歌いましょう。

フランス語で「おおシャンゼリゼ」を歌う

この歌に出てくるシャンゼリゼとは、パリ市内にある大通りの名称です。この曲はもともと、イギリスのロックバンド、ジェイソン・クレストが1968年に発表した英語の「ウォータールー・ロード」を、フランス語でカバーした作品です。それが現在では、フランスのシャンソンとして知られるようになりました。『シャンゼリゼ通りには、いつでも、どんなときでも、何でも欲しいものがある』とウキウキするような気分で陽気に歌います。

呼吸法は、イタリア語のときと同じように、体を硬直させないようにおなかに向かって自然に深く息を吸うようにしましょう。発声は明るい気持ちで、暗くなりすぎないようにしてください。

発音については、フランス語には鼻母音といって鼻から息を出して発音する母音があります

ので、これに注意して声を出すようにします。例えば曲名の「おおシャンゼリゼ」のシャンは「ア」の鼻母音です。また、ボン・ジュールのボンは、「オ」の発音を鼻から出す鼻母音です。少し難しいですが、楽しんで発音してみましょう。

イタリアとフランスの芸術歌曲を聴く

ここでは、イタリアの古典歌曲として知られているジョルダナーニ作曲の「Caro mio ben」(いとしい女よ)を鑑賞します。詩の内容は、『愛しい女よ、自分のことを信じてほしい。あなたがいなくては辛い』というものです。

次に、フランスの芸術歌曲の中からフォーレ(1845～1924)作曲の「Après un rêve」(夢のあとに)を鑑賞します。この歌はヴァイオリンやチェロに編曲されたものも有名です。内容は、夢で出会った美しい目と声をもった女性との幻想的な世界が描かれ、夢から覚めて現実に残された主人公の哀しい叫びが無情にひびき渡る。というものです。

ワードファイル

ナポリ

古くにはネアポリス(新しい町)と呼ばれていたナポリは、イタリアの南西部に位置し、世界的な商業都市、貿易港として紀元前から栄えた町です。ナポリは世界的に風光明媚な美しい港町として知られ、古くから音楽が盛んで、定期的なコンテスト形式の音楽祭が開かれています。守護聖人のサンタ・ルチア像が港町ナポリを見守っています。

オー・シャンゼリゼ

「Les Champs-Élysées」は、この曲の題名で、「レ・シャンゼリゼ」と発音します。歌の中に「オー・シャンゼリゼ」と出てきますが、この「オー」は感嘆詞の「オー!!」ではなくAオーuxはÀとLesが合わさってできたもので、Àは場所を表し「どこどこで」Lesは定冠詞の複数形です。ですからAux Champs-Élyséesは「シャンゼリゼ通りで」という意味になります。